

答弁書第八十五号

内閣参甲第九五号

昭和二十四年五月十四日

内閣総理大臣 吉田 茂

参議院議長 松平恒雄殿

参議院議員太田敏兄君提出米價のバリテイー方式に関する質問に対し、別紙答弁書を送付する。

參議院議員太田敏兄君提出米價のバリティー方式に關する質問に対する答弁書

御指摘の資料にもある通り、昭和元年と昭和九年とを比較した場合の農産物價格と農村必需品（工業品）價格との關係については、所謂米價率だけから考えて見ても殆んど同様の結論になると考へる。

然しながら、この昭和元年の事情を再考してみると、一般物價は大正末期以降下落の傾向を辿つていた反面、米價については大正十二年産米以降の概して不作つづきの影響を受けて上昇の傾向を示していた年であるので、この観点から現在のバリティー計算の基準年度である昭和九年を考へた場合、昭和元年を基準とした物價指數の変動のみによつて所謂シエーレがあるとはかり言えないのは、例えば明治三十三年を基準とした米價率（一、一八五）によつて所謂逆シエーレがあるとはかり言えないのと同様であると考えらる。

なお、米價率から同じくバリティー計算の基準年度である昭和十年及び十一年を見た場合、米價率はそれぞれ一、三七三及び一、三二七であつてかりに昭和元年（米價率一、三四四）を基準とした場合においても、必ずしもシエーレがあつたとは言ひ得ない。